

平成 16 年度 教員個人評価（試行）の集計・分析報告書

海洋エネルギー研究センター

1. 個人評価の実施状況

1) 対象教員数，実施者数，実施率

対象教員数（人）	実施者数（人）	実施率（％）
4 (助教授 2 , 講師 2)	4	100

2) 点検・評価項目および評価の基準

点検・評価は，教育，研究，国際交流・社会貢献及び組織運営の各領域ごとに，個人の活動実績及び改善に向けた取組について行う。

各教員は，各自の個性を生かす評価を行うため，自己の職種，職務，能力，関心等を勘案して各評価領域における達成目標をあらかじめ設定して申告する。

達成目標の設定は，別に定める「海洋エネルギー研究センターにおける個人達成目標の指針（以下「指針」という。）」2 に基づき行う。

添付資料

センターにおける個人達成目標の指針

3) 教員個人の評価（試行）の実施概要

評価組織	海洋エネルギー研究センター個人評価実施委員会
構成	門出政則（理工学部教授 / センター長） 池上康之（センター助教授 / 副センター長）

実施内容と方法：

- (1) 各教員は，毎年 7 月末日までに個人目標申告書（別紙様式 1 ）を作成し，センター長に提出する。
- (2) 各教員は，毎年 7 月末日までに前年度の活動実績報告書（別紙様式 2 ）及び自己点検・評価書（別紙様式 3 ）を作成し，センター長に提出する。
- (3) 評価実施委員会は，各教員の個人目標申告書，活動実績報告書及び自己点検・評価

書に基づいて、本学及び本センター長の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。

また、評価実施委員会は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することができる。

- (4) 領域別評価及び総合評価は、指針3に定める方法により行う。
- (5) センター長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した個人評価結果(別紙様式4)を当該職員に封書で通知する。
- (6) 各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内に異議申立書(様式任意)をセンター長に提出することができる。この場合において、評価実施委員会は、当該教員から意見を聴取する機会を設けるものとする。
- (7) 評価実施委員会は、異議申立書を提出した教員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に際し、評価実施委員会は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、必要と認められる者から意見を求めなければならない。
- (8) 再審査・評価の結果は、センター長から当該教員に封書で通知する。
- (9) 評価実施委員会は、個人評価結果の総合的分析を行い、センター長は、その結果を毎年7月末日までに大学に報告する。

添付資料：

- 個人目標申告書(別紙様式1)
- 活動実績報告書(別紙様式2)
- 自己点検・評価書(別紙様式3)
- 個人評価結果(別紙様式4)

2. 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

(1) 教育に関する評価

教養教育/学部教育課目担当

全員が教養教育1科目担当している。1名の教員は理工学部の授業科目を3科目担当している。

大学院授業担当

全員が1科目担当している。

大学院修了学生数

	博士後期副指導	博士前期指導
有資格者数	2	3
有資格者一人当たりの年平均	2	1.33

学生生活指導，FD 活動，教育改善の取り組み

いずれの項目についても各教員が工夫をしながら，教育効果の改善に向けて取り組み，成果を上げている．FD への参加も，今後必要となるであろう．

(2) 研究に関する評価

論文数

		年間 1 当たりの平均	最小	最多
学術論文	総数	3.75	0	7
	英文	2.75	0	6

過去 5 年間で審査付き論文がない教員はいない．国際会議や国内会議での発表論文は，正確なデータは得られなかったが，学術論文数よりも多いことは，明らかである．

(3) 国際交流・社会貢献に関する評価

釜慶大学との学術協定を行い，共同研究を開始している．

フィジーで海洋調査を行った．

国立科学博物館で海洋温度差発電の展示会を行った．

毎年オープンラボを実施している．

合同セミナーを年 3 回開催した．

高大連携（ジョイントセミナー）に参加した．

(4) 組織運営に関する評価

平成 14 年 4 月に新たなセンターが発足し，15 年 3 月に新建築が完成した．組織の立て直しと運営方針を確立した．

広報活動を行うための組織を確立した．

佐賀 伊万里間に光ケーブルを接続し，円滑な組織運営が出来る体制にした．

3 . 領域別評価と総合評価

領域別評価

- ・ 教育：担当科目数も少なく，各教員とも教育活動を十分行っている．各自，教育に対する工夫を行っている．
- ・ 研究：学術論文をもっと公表できるように頑張ってもらいたい．
- ・ 国際交流・社会貢献：4 名という少ない教員組織の中で十分な成果を上げている．

目標に対する評価をまとめたものを次表に示す．

評価領域	領域別評価点（平均）	目標達成率（平均）
教 育	4.25	85
研 究	3.5	65
国際交流・社会貢献	3.5	70
組織運営	4	85
その他		

国際交流・社会貢献については、多少辛めの自己評価となっているが、十分な成果を上げている。一方、研究については、あまい自己評価となっている。もう少し、努力が必要である。

各教員の自己評価による目標達成率は、次表となっている。

評価領域	A	B	C	D
教 育	75	95	80	90
研 究	70	75	50	80
国際交流・社会貢献	70	60	70	90
組織運営	75	75	100	90
その他			90	

自己評価のばらつきが大きかった。

総合評価

総合評価	総合評価点	該当欄に 印
特に優れている	5	
優れている	4	
おおむね良好	3	
改善の余地がある	2	
改善を要する	1	

優れているとおおむね良好の評価となっている。

自己評価の結果に対して、センター長のコメントを付けて提出された自己評価表を各自に返却した。

センターの業務は、研究に重きを置かれていることから評価の視点を17年度から修正する必要がある。この点について、今後センターの教員と評価項目について検討したい。

佐賀大学海洋エネルギー研究センターにおける教員の個人評価に関する実施基準（試行）

（趣旨）

第1 この実施基準は、国立大学法人佐賀大学における職員の個人評価に関する実施基準（平成17年9月27日制定。以下「個人評価実施基準」という。）第3に基づき、佐賀大学海洋エネルギー研究センター（以下「本センター」という。）における職員の個人評価の実施基準に関し、必要な事項を定める。

（評価体制）

第2 本学部の個人評価の実施に係る評価組織は、センター長が別に定める海洋エネルギー研究センター個人評価実施委員会（以下「評価実施委員会」という。）とする。

2 本センターが行う個人評価の対象とする教員は、本センターに所属する専任の教員（教授，助教，講師及び助手）とする。

（点検・評価項目及び評価基準等）

第3 点検・評価は、教育，研究，国際交流・社会貢献及び組織運営の各領域ごとに、個人の活動実績及び改善に向けた取組について行う。

2 各領域の点検・評価項目及び評価基準は、第4の（2）に定める活動実績報告書によるものとする。

3 各教員は、各自の個性を生かす評価を行うため、自己の職種，職務，能力，関心等を勘案して各評価領域における達成目標をあらかじめ設定して申告する。

4 達成目標の設定は、別に定める「海洋エネルギー研究センターにおける個人達成目標の指針（以下「指針」という。）」2に基づき行う。

（評価の実施方法）

第4 個人評価の実施は、個人評価実施基準によるもののほか、次の各号により実施する。

（1）各教員は、毎年7月末日までに個人目標申告書（別紙様式1）を作成し、センター長に提出する。

（2）各教員は、毎年7月末日までに前年度の活動実績報告書（別紙様式2）及び自己点検・評価書（別紙様式3）を作成し、センター長に提出する。

（3）評価実施委員会は、各教員の個人目標申告書，活動実績報告書及び自己点検・評価書に基づいて、本学及び本センター長の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行う。

評価実施委員会は、審査に当たり、審査の公正性を確保するため、必要に応じ、他の職員から意見を求めることができる。

また、評価実施委員会は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取するこ

とができる。

- (4) 領域別評価及び総合評価は、指針3に定める方法により行う。
- (5) センター長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した個人評価結果（別紙様式4）を当該職員に封書で通知する。
- (6) 各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内に異議申立書（様式任意）をセンター長に提出することができる。この場合において、評価実施委員会は、当該教員から意見を聴取する機会を設けるものとする。
- (7) 評価実施委員会は、異議申立書を提出した教員から意見を聴取の上、必要と認められるときは、再審査・評価を行う。再審査に際し、評価実施委員会は、先行する審査に際して意見を求めた職員以外に、必要と認められる者から意見を求めなければならない。
- (8) 再審査・評価の結果は、センター長から当該教員に封書で通知する。
- (9) 評価実施委員会は、個人評価結果の総合的分析を行い、センター長は、その結果を毎年7月末日までに学長に報告する。

（評価結果の活用）

第5 評価結果の活用については、国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）によるもののほか、次の各号によるものとする。

- (1) 各教員は、自己の活動状況を点検・評価し、自己の活動改善の資料とする。
- (2) センター長は、各教員の活動状況を取りまとめ、活動改善の資料とする。
- (3) センター長は、達成度に応じて、教員の活動の改善について適切な指導及び助言を行う。

（評価結果の公表等）

第6 取りまとめた評価結果は、運営委員会等に報告するとともに公表する。

- 2 個人の評価結果は、本人以外には公開しないものとする。
- 3 前2にかかわらず、評価実施委員会委員は、必要に応じ個人評価結果、自己点検・評価書を閲覧することができる。
- 4 評価実施委員会委員は、正当な理由なく、職務上知り得た非公開の個人情報を漏らしてはならない。

附 則

この実施基準は、平成17年12月16日から施行する。

「センターにおける個人達成目標の指針」(教員用)

1 個人達成目標の設定：「個人目標申告書」

教員の業績評価は、各教員の諸活動の領域（教育，研究，国際交流・社会貢献及び組織運営）について行われる。画一的な基準ではなく、各教員個人の個性を生かす評価を行うため、自主的に達成目標を設定して申告する。

2 達成目標設定の記入方法

各教員は、自己の立場，職務，能力，関心等を勘案して、教育，研究，国際交流・社会貢献及び組織運営の各領域における達成努力目標を以下の例示を参考にして自主的に設定し、「個人目標申告書」（別紙様式1）に記入する。

なお、教育に関する領域と研究に関する領域においては、各教員は、センター独自の目標を含めて5つ以上の個人目標を設定すること。

〔各領域の目標例〕

教育に関する目標例

1. 主題科目及び学部教育に協力する。
2. 学部・大学院教科科目等の教育支援を行う。
3. 修士学生定員を充足するように努力する。
4. 修士学生自らが特別研究の成果を学会等で発表するように指導する。
5. 博士後期課程の学生を3年間に少なくとも1人を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力する。
6. 留学生を受け入れる。
7. 専攻間の共通科目を担当する。
8. TA/RAの採用・指導により学生の教育を活性化する。
9. インターンシップ制度を活用した学生の体験的学習・教育を行う。
10. 企業からの就職斡旋依頼，相談に応じる。
11. その他，学科独自の目標

研究に関する目標例

1. 査読付論文として少なくとも1年に1報，掲載されることを心掛ける。
2. 研究代表者として科学研究費補助金費等の公募に応募する。
3. 大学院博士前期課程学生の主指導教員としての担当資格を維持する。
4. 大学院博士後期課程学生の主指導教員としての担当資格を維持する。
5. 研究成果の講演等の発表を年1件以上行う。
6. 学部間，学科間，大学間，官学間等の横断的な研究プロジェクトに参画する。
7. 共同研究・受託研究を受け入れる。
8. 大学の知的財産（特許等）の創出と獲得に貢献する。
9. その他，学科独自の目標

国際交流・社会貢献に関する目標例

- 1．本学が行う国際的学术交流事業に協力，貢献する。
- 2．学外の国際的学术交流事業（日本學術振興会，JICA 研修等）の依頼に応じる。
- 3．公開講座，セミナー，フォーラム，シンポジウム，生涯学習等，地域の人々に対し貢献する。
- 4．学内外（学会，自治体等）からの協力依頼に応じる。
- 5．高大連携（ジョイントセミナー）等へ貢献する。
- 6．ホームページを用いて研究を分かりやすく紹介する。
- 7．科学技術共同開発センター等を通じた科学技術相談に積極的に応じ，地域振興に協力する。
- 8．佐賀大学 TLO を通じた技術移転に協力する。
- 9．その他，学科独自の目標

組織運営に関する目標例

- 1．全国共同利用施設としての運営に務める。
- 2．センターにおける諸活動に積極的に参加，協力する。
- 3．センター教職員が働きやすい環境づくりに協力する。
- 4．環境美化，安全衛生活動等に協力する。
- 5．センターの定める光熱水量削減計画に協力し，光熱水量の削減に務める。
- 6．自己点検・評価等の資料作成に応じる。
- 7．全学委員会委員，学部委員会委員又は学長・センター長からの推薦・指名委員としての役割を果たす。
- 8．学外組織・機構・本省等からの推薦・指名委員等の要請に応じる。
- 9．学内共同教育研究施設との連携に協力する。
- 10．センター内において指定された職務を果たす。
- 11．同窓会，後援会等からの相談に積極的に応じる。
- 12．大学公開事業（後援会，オープンキャンパス等）に協力する。
- 14．その他，センター独自の目標

3 領域別評価と総合評価

領域別評価

領域別評価は、評価領域ごとに次の5段階で評価し、「自己点検・評価書」(別紙様式3)に記入する。

領域別評価	領域別評価点
かなり高い	5
高い	4
標準的レベルである	3
低い	2
かなり低い	1

総合評価

総合評価は、次の5段階で評価し、そのように評価した理由を、「自己点検・評価書」(別紙様式3)に記入する。

総合評価	総合評価点
特に優れている	5
優れている	4
おおむね良好	3
改善の余地がある	2
改善を要する	1

附 則

この指針は、平成17年12月16日から施行する。

平成16年度の「個人目標申告書」(別紙様式1)」

平成 17年 12月 26日

- ・平成16年度(H16.4.1~H17.3.31)の活動目標(I~IVの領域)を記入してください。
- ・セル内での改行は,ALTキーを押しながら,enterキーを打鍵してください。

学科名 洋エネルギー研究センター

職 名 _____

氏 名 _____

I. 教育の領域に関する目標

箇条書きで目標を記入する

II. 研究の領域に関する目標

箇条書きで目標を記入する

III. 国際交流・社会貢献の領域に関する目標

箇条書きで目標を記入する

IV. 組織運営の領域に関する目標

箇条書きで目標を記入する

V. 以上の領域で表せないその他に関する目標

箇条書きで目標を記入する

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)
- ・
- ・
- ・

平成16年度の「活動実績報告書」(別紙様式2)

平成 17年 12月 27日

・この報告書は、平成16年度(H16.4.1~H17.3.31)について記入してください。
・セル内での改行は、ALTキーを押しながら、enterキーを打鍵してください。

所属学科名 海洋エネルギー研究セン 職 名 _____
氏 名 _____

I. 教育の領域

1. 学部教育： 講義・演習・実験など

区 分	授業科目名	対象学科・学年	学生数	コマ数
主題科目 部会名：				
講義 演習 実験				
その他				

2. 大学院教育(博士前期課程・博士後期課程)

	授業科目名	対象専攻	受講人数	コマ数
講義・セミナー・演習など				

3. 学部・大学院(博士前期課程・博士後期課程)研究指導など

卒業研究指導学生数	大学院指導学生数		学位取得者指導数	
	前期(修士)	課程博士	前期(修士)	課程博士
名	名	名	1名	名
・学生の修士論文題目, 博士論文題目, 及び学外における研究学習発表, 受賞など				

4. 教育改善の取組
(講義・演習・実験等における授業・指導方法の工夫, 授業プリントや教材の作成など)

--

5. 教育研修・教育活動(FD・SDへの参加, 講演会, 講習会など)

研修, 講習会等の名称	開催日等	参加時間数
	平成 年 月	時間

6. 学生への生活指導等(オフィスアワー, クラス担任, クラブの顧問教員など)

指導の区分	指導内容における特記事項	期 間
オフィスアワー		平成16年度全期間
クラス担任		平成16年 月 ~ 年 月
クラブの顧問		
その他		平成16年 月 ~ 年 月

7. 上記項目で表せない教育活動(必要があれば記入)

教育活動(名称等, 具体的に記入してください。)	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月 ~ 年 月

II 研究の領域

1) 著書, 論文等の発表実績

発表実績については, 過去5年間(H12.4.1 ~ H17.3.31の5年間)の累積数を御記入ください。

著書(編)	論文総数(編) (うち, 査読付編数)	和文原著(編) (うち, 査読付編数)	英文原著(編) (うち, 査読付編数)	その他(編)
編				

2) 著書, 論文等の発表実績(H16.4.1 ~ H17.3.31の1年間のリスト)

著書, 総説, 原著論文(和文, 英文), 国際会議プロシーディング, 総説等の区分に分けてScienTecの様式, 又は科研の様式に従って記入してください。必要に応じて枠を拡大してください。

--

3) その他の研究活動実績等(特許, 受賞, 佐賀大学が世話役となって行った学会・研究会, 研究に関する国内外の交流・研修, 講演会講師など)(H16.4.1 ~ H17.3.31の1年間のリスト)

<p>・</p>

III. 国際交流・社会貢献の領域

1) 国際交流実績：具体的に実績（内容）を記入してください。

名 称	期 間

2) 社会貢献実績

・学協会，審議会委員など具体的に実績（内容）を記入してください。

名 称（実績内容）	期 間

IV. 組織運営の領域

組織運営の活動実績（全学，学部，学科などの委員）

名 称	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

V. 以上の領域で表せないその他の活動実績

名 称（実績内容）	期 間
	平成16年度全期間
	平成16年 月～ 年 月

平成16年度活動の「自己点検・評価書」(別紙様式3)

平成 年 月 日

平成16年度活動の「個人評価結果」(別紙様式4)

平成18年7月27日

氏名: _____ 青文字: 記入例
 職種: _____ 黄色塗り: 評価実施委員会が記入
 所属学科: 海洋エネルギー研究センター

1. 教育 領域

自己点検評価	領域別評価点	目標達成率%
評価実施委員会評価	領域別評価点	目標達成率%

2. 研究 領域

自己点検評価	領域別評価点	目標達成率%
評価実施委員会評価	領域別評価点	目標達成率%

3. 国際交流・社会貢献 領域

自己点検評価	領域別評価点	目標達成率%
評価実施委員会評価	領域別評価点	目標達成率%

4. 組織運営 領域

自己点検評価	領域別評価点	目標達成率%
評価実施委員会評価	領域別評価点	目標達成率%

5. 上記の領域評価で表せない特記事項（必要があれば記入）

自己点検	領域別評価点	目標達成率%
	実績に対する自己評価，評価点の根拠など	目標に対する取組，成果，達成率の根拠など

評価		
	領域別評価点	目標達成率%

領域別評価：評価点並びに目標達成率を記入してください。

評価領域	領域別評価点	目標達成率
教 育		
研 究		
国際交流・社会貢献		
組織運営		
その他		

総合評価：次の5段階で評価し、そのように評価した理由を記入してください。

・該当欄に 印を記入してください。

総合評価	総合評価点	該当欄に 印
特に優れている	5	
優れている	4	
おおむね良好	3	
改善の余地がある	2	
改善を要する	1	

・評価した理由：

例えば「総合評価点」を「3」と評価した場合、
「教育の領域」における評価は～～で、その目標達成率は、・・・であった。
「研究の領域」における評価は～～で、その目標達成率は、・・・であった。
「国際貢献・社会貢献の領域」における評価は～～で、その目標達成率は、・・・であった。
「組織運営の領域」における評価は～～で、その目標達成率は、・・・であった。
以上のことを考慮すれば、総合的に「おおむね良好」と自己評価した。

センター長のコメント